

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学研究科
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的 に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 神学研究科の理念・目的の中で表されていたアドミッション・ポリシーを明文化する。	→アドミッション・ポリシーの明文化（2011年度入試実施までに）	B
2. アドミッション・ポリシーに基づいて、個別入試制度（一般、社会人、外国人留学生）で募集する入学者像を明確にする。	→個別入試制度で期待する入学者像の明示（2012年度入試実施までに）	C
3. アドミッション・ポリシーに照らして入学者選抜を検証する制度を構築する。	→既存の入試検討委員会における検証および研究科委員会に対する報告書の作成（2011年度入試より）	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目5.0.1	<p>(方針)</p> <p>神学研究科では、神学を専攻領域とし、その中に4つの研究分野（聖書分野、歴史・文化分野、組織・思想分野、実践分野）を設けている。本研究科設置以来の目的として、キリスト教界における宣教活動を担う伝道者（牧師・聖書科教師など）の育成を掲げてきた。その伝統を守りながらも、2008年度より履修コース制を導入して、キリスト教神学、キリスト教思想・文化の分野で、より広い関心から高度な研究が行えるようになっている。</p> <p>博士課程前期課程 キリスト教神学・伝道者コースにおいては、所属教会から推薦を得られる者に受験資格を認めることで、神学的な研鑽を深め、多様な宣教の現場で活動する高い志を持つ者を受け入れている。キリスト教思想・文化コースにおいては、受洗の有無を問わず、キリスト教が人類の歴史の中で生み出してきた思想や文化的財などの学際的領域に興味を持つ者を幅広く受け入れている。</p> <p>博士課程後期課程 神学の基礎的な知識に裏打ちされて、専門的な知識と思索を深め、各自の専門領域において優れた特色ある研究を行える者を受け入れている。</p> <p>(現状説明) 入試検討委員会（研究科）および研究科委員会での検討を経て、上記方針を2011年度募集要項に掲載している。ただし、特にキリスト教神学・伝道者コースにおいて学部教育との接続を重視しており、学部のディプロマ・ポリシーの策定・明示を待つて改めて検証を行う予定である。</p>
☆ 小項目5.0.2	<p>(現状説明) 現行、前期課程においては、一般入試、社会人入試、外国人留学生入試を用意し（キリスト教神学・伝道者コースにおいては、いわゆる洗礼条項を設け、所属教会からの推薦書の提出を義務付けている）、後期課程においては、一般入試、外国人留学生入試を用意している。それぞれの入試制度において上記アドミッション・ポリシーの各要素がどのように実現されているか、2012年度入試実施（2010年度中）までに、整理・明文化していく予定である。</p>

☆	小項目5.0.3	(現状説明) 2008年度から2010年度の収容定員に対する在籍学生数比率は、以下のとおりであり、適切に推移しているといえる。 前期課程 定員数 在籍者数 在籍学生比率 2008年度：20名 22名 1.10 2009年度：20名 21名 1.05 2010年度：20名 21名 1.05 後期課程 定員数 在籍者数 在籍学生比率 2008年度：6名 7名 1.17 2009年度：6名 7名 1.17 2010年度：6名 7名 1.17
☆	小項目5.0.4	(現状説明) 定期的に検証する仕組みとして、入試検討委員会（研究科）における報告書の作成を検討しているが（2011年度入試実施より）、具体的な内容については決まっていない。
☆	その他	

《特定6項目データ》

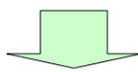
本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【神学研究科】		前期/後期課程	単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考
指標1	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	66.7%	75.0%	100.0%	66.7%	72.7%	一般入試入学者数÷入学者数
		後期課程		100%	100%	50%	100%	100%	
指標2	志願者総数	前期課程	人	23	14	19	15	19	
		後期課程		5	3	2	2	2	
指標3	志願者倍率	前期課程	%	230.0%	140.0%	190.0%	150.0%	190.0%	志願者÷入学定員
		後期課程		250.0%	150.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項

☆	小項目5.0.1	
☆	小項目5.0.2	前期課程においては、2008年度に履修コース制を導入して後、例年キリスト教思想・文化コースへ学生を受け入れている（2008年度・1名、2009年度・3名、2010年度・3名。2008年度に受け入れた1名は、2010年度に後期課程へも進学）。 また後期課程については、いわゆる課程博士の取得につながる者を求める入学者像のひとつの柱としているが、その方針に適切な学生を受け入れ、近年は順調に輩出しているといえる（課程博士輩出数：2007年度・1名、2008年度・1名、2009年度・1名）。
	小項目5.0.3	
	小項目5.0.4	
	その他	



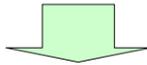
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

	小項目5.0.1	
	小項目5.0.2	アドミッション・ポリシーに照らして入学者選抜を検証する仕組みを整え、さらに効果をあげる努力を行う。
☆	小項目5.0.3	
	小項目5.0.4	
	その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目5.0.1	研究科全体のアドミッション・ポリシーについて明文化したものの、個別入試制度（一般、社会人、外国人留学生）で募集する入学者像までは明確にできていない。
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目5.0.1	入学者選抜を検証する仕組みを構築し、その仕組みを有効に機能させるために、個別入試制度で募集する入学者像を明文化する。
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価>（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

【学外委員】

※大学院も学部と全く同様の指摘をすることができます。

○神学部は少数精鋭ということもあり量的目標については、きわめて安定しているので、むしろ質的目標について何を具体的に進めたいのかを明確にすることが期待されます。

・多様性の充実を求めているように推察されますが、そのための施策が消極的な印象を受けています。

【学内委員】

○目標にもかかげられアドミッション・ポリシーを明文化されようとしています。今後の基本となるものですので十分な検討を通して、着実且つ出来るだけ早急な策定を望みます。

○小項目5.0.2については、もう少し現状について説明をお願いします。

○小項目5.0.3については、特定6項目データを使用してもう少し説明を加えてください。志願者総数の動向などについて説明をお願いしたいと思います。

○検証は、受け入れ方針に沿った学生を確保できたかどうか、という検証でもあります。なかなか測定は困難で短期で出来るものでもありませんが、測定方法を確立され、長期的、計画的な検証を期待します。

○アドミッションポリシーについては、比較的順調に進展しています。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 小項目5.0.2について、相応しい入学者像を、改めてアドミッション・ポリシーとして明文化する予定である。例えば前期課程において明示される、入学生に必要な能力（各要素）のそれぞれが、実際の入試制度（一般入試・社会人入試・外国人留学生入試）のどれで計られ、実現されているのか、整理する必要があると考えている。

小項目5.0.3について、前期課程では過去5年間で毎年18名（平均）の志願者があるが（特定6項目データ指標2）、在籍学生比率は1.05程度を維持しており、適切に定員を管理しているといえる。

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

5.0.0.S1	学生の多様性の確保ー入試形態数と入試形態別入学者の割合
5.0.0.S2	各学部の新入生数のうち、一般入試(センター利用入試を含む)の割合
5.0.0.S3	地域別入試会場別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数
5.0.0.S4	入試講評(問題と正解、正答率とそのコメント)の公表とその頒布数
5.0.0.S5	AO入試の受験者数と入学者数
5.0.0.S6	社会人学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S7	専門職大学院(KGPS)の受験者数および入学者数
5.0.0.S8	科目等履修生(教職免許状および博物館学芸員資格取得を含む)の入学者数
5.0.0.S9	聴講生の入学者数
5.0.0.S10	留学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S11	国別留学生数(学部別、研究科別)の経年変化
5.0.0.S12	学部における収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S13	学部における入学定員に対する入学者比率
5.0.0.S14	編入学定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S15	博士課程前期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S16	博士課程後期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在学学生数比率
5.0.0.S17	学部・学科の退学者数
5.0.0.S18	学部・学科の編入学者数

<個別的な指標>
